



ときまわまつ

小学生時代は、黄金時代！

校長 加藤 真寿美

学校の歴では、十月は一年の半分に当たり、折り返し地点となる大事な月です。前期の振り返りもしっかり行い、意欲的に後期を過ごしていけるよう指導をしていきます。前期終業式となる十月五日には、通知表を担任から子供たちへ渡します。通知表は、単なる成績評価表ではありません。通知表は、各教科の評価だけでなく、成績数値には表れないその子の成長や変化をお知らせするものです。そのことにより、保護者と担任が今後の指導における共通の下地をもつ役割を担います。また、何よりも後期に向かう子供たちが「よし、次も（は）頑張ろう！」と思えることが大事になります。子供たちが通知表を持ち帰りましたら、成績も含めて子供たちの成長を確認し、後期につながる励ましの言葉掛けをしていただきましたようお願いいたします。

さて、ずいぶん昔の話になりますが、精神科医であり大学教授でもあったある先生の講演会に参加する機会がありました。ヒトが人として成長していく上で重要な鍵を握っているのは学童期の「学び」であるという内容で、私自身が学童期の子供たちに携わる小学校教諭であり、当時子育て真っ最中の時期でもあったことから、熱心に耳を傾けたことを覚えていました。話の一部は次のようなことでした。

『学童期は、大人になるための準備期間であり、素直で記憶力がよく全身で「学び」時期である。言葉を通じて、習得する、多くの実体験を通して、知識や社会性を身に付ける。体を鍛え、より多くの友達と関わり、子供同士の付き合いをもつ。この時期に覚えたことは一生忘れることはなく、たとえそのときには分からなくても思春期・青年期の学習に生きてくる。つま

り、学童期に得た「学び」が将来の生き方に繋がる。』
少し大きな解釈になるかもしれませんが、今後の人生を左右するほど重要な時期であるということに強く感じました。

今、まさしく子供たちは学童期を生きています。目の前にないことや形のないものも言葉によって伝えることができ、様々なコミュニケーションによって世界を広げています。いろいろな友人と関わることは、自分を知り、将来自分と価値観の合う友人を得る際の重要な経験として活かされます。この大切な学童期を黄金時代にするために、学校と家庭の果たす役割はとても重大です。同じ方向を目指して、子供たちのためのより良い連携を築き上げていきましょう。

十月十一日から始まる後期には、運動会や音楽会・展覧会などの大きな行事が控えています。また、学習に集中できる気候の良い時期にもなります。様々な体験やかかわりを通して、子供たちの学校生活を黄金色に輝かせていきたいと思っています。引き続き、どうぞよろしくお願いたします。

宿泊学習を終えて

四・五・六年生の宿泊学習を無事終了することができました。感染対策を講じながらではありましたが、期間も内容も予定どおりに行うことができました。また、参加児童が健康に過ごすことができましたことが何よりでした。事前の準備、健康観察等、御家庭での御協力に感謝いたします。

【四年生】

那須甲子移動教室（一泊二日）

「自然に親しみ、規律ある生活をする」とともに、互いに協力し合い友情を深める」

【五年生】

都留自然体験教室（二泊三日）

「体験を通して、自然の素晴らしさや自然との関わりについて知り、自然に親しむとともに、災害時等いざというときの対応力やエネルギーの大切さ、必要性についての基礎を学ぶ」

【六年生】

日光高原学園（二泊三日）

「集団生活の規律を守り、率先して行動し、東京ではできないことを楽しく体験・見学し、最後の宿泊学習を最高の思い出にする」
どの学年も、子供たちの笑顔が眩しいほどに輝いていました。

総合防災訓練

九月十七日(土)

爽やかな秋晴れの中、常磐松小学校で三年ぶりに総合防災訓練が行われました。東京消防庁渋谷消防署、渋谷区消防団第二分団に協力を仰ぎ、無事に終えることができました。

子供たちは、煙体験、初期消火訓練、バケツリレー、担架による搬送法、応急救護、AED体験、起震車体験の中から三つを体験しました。消防署職員や消防団員の方から、災害に備えた心構えや、気を付けること等をしっかり教えていただき、防災意識を高めた様子でした。



四年 那須甲子高原移動教室

九月二十一日(水)・二十二日(木)

台風一過の青空が広がり、気持ち良い天気の中、のびのびと活動することができました。

一日目の始まりはハイキングです。大自然を満喫しながら川の源流を見たり、栗を拾ったり、たくさんの自ヤーです。大きな火を囲み、ダンスやゲームを行いました。自分たちの企画・運営でやりきることができました。二日目の朝会では、渋谷と山の気温の違いに驚きながらも、全員が元気にラジオ体操を行い、元気にスタートすることができました。焼き板体験では、重いかまどを選び、薪を割り、火を付けたところまで、自分たちで行いました。最後には、那須甲子の思い出を板に描き、移動教室を締めくくりました。

四年生は、初めての移動教室です。大自然とのふれあい、仲間と過ごす時間、仲間と協力する大切さ、自分たちで計画・実行する大変さや達成感、初めてばかりの体験。子供たちがそれぞれが様々なことを学び、大きく成長した良い時間となりました。



四年 TGG見学

九月五日(月)

四年生は、外国語学習の一環として、東京グローバルゲートウェイへ校外学習に行ってきました。東京グローバルゲートウェイは、体験活動を通して英語に親しむことを目的とした施設です。「楽しみながら英語に親しむ」をめあてに、約三時間オンライングリッシュでの活動に取り組みました。自分の考えが伝わったときの喜び、うまく伝わらないもどかしさなどいろいろなことを経験する貴重な機会となりました。英語ばかりの空間に不安な様子を見せていた子供たちですが、自分の思いを何とかして伝えるために知っている単語やジェスチャーを使い、最後まで諦めずに伝え続ける姿が輝いていました。本格的な施設や元気なスタッフのおかげもあり、最後まで楽しむことができました。



■ 十月の生活目標 ■

落ち着いて勉強しよう

■ すこやか目標 ■

姿勢を正しくしよう

前期も、残り数日となりました。

御家庭では、通知表「はげみ」をお子様と一緒にご覧いただき、お子様の成長の跡を振り返る時間をお持ちいただけたらと思います。

さて後期の始めに際し学校では、児童一人一人が後期の学校生活および学習を、落ち着いた気持ちで取り組めるようにしていきます。

例えば、椅子の座面から滑り落ちるような格好で座っていたり、足を組んだりしながら授業や給食の時間を過ごしている児童を多く見かけます。両足を床につけ、椅子の奥に腰掛ける「正しい姿勢」の大切さについても一度振り返り、児童が意識できるように、改めて指導をして参ります。

また御家庭でもお子様と共に「常磐松小 スタンドード」を使って、お子様の持ち物の確認などを改めていただけると有難いです。持ち物への記名や筆箱の中身など、新年度の頃に比べ、お子様の管理が甘くなってしまうものもあるのかと思います。お見守りをよろしく願います。

後期は、運動会や音楽会・作品展などの大きな行事を予定しています。それらの行事を生かしながら、児童にとって実りの多い秋となるよう、努めていきます。

特別支援教室「ゆずりは」

◆ 体幹トレーニング ◆



姿勢を維持し、運動に必要な様々な動きの土台となるのが体幹です。体幹とは、首から上と手足を除いた胴体部分と骨盤を支えるお尻周辺を指します。この体幹部の筋肉には体を支え、姿勢を保持する働きがあります。手先の動きなどの微細な運動も、この体幹が安定しているからこそ育ちます。今回、ゆずりは教室で行っている体幹トレーニングの器具のうち、二つを紹介します。

【バランス平均台】

柔らかい素材でできたかまぼこ状のレールを使います。この上を歩くことは意外に難しく、体の軸を意識することができません。体幹やバランス力、集中力を養うことができます。



【バランスボール】

バランスボールに座る基本姿勢を、はじめに確認してから使います。次に、バランスボールに座って体を弾ませます。体が弾むことで、姿勢を保持する筋肉の働きやバランス感覚を高めることができます。



ゆずりは教室では、このような器具を使って、子供たちが達成感を味わいながら、楽しくトレーニングができるようにしています。

直通電話：〇三三三 四八六・五一〇八

ゆずりは教室 担任 金勝 友恵